

イヌマキへの薬剤散布と光反射マルチ処理によるミカンのチャノキイロアザミウマの効率的防除法

[要約] チャノキイロアザミウマのミカン幼果への飛来源であるイヌマキへの薬剤散布と成虫飛来防止効果の高い光反射マルチの体系処理により、チャノキイロアザミウマの果実被害を著しく軽減することができる。

長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	普及
平成8, 9年度長崎県果樹試験場業務報告, 第63回九州病害虫研究会で口頭発表						

[背景・ねらい]

チャノキイロアザミウマはカンキツへの加害期間が長く、地域によっては果頂部に激しい被害を与えており、多数回の防除が行われている。そこで、虫の生態的な特性を活かした効率的な防除法を組み入れ、農薬の散布回数を減らす目的で、本害虫の好適な寄主植物である防風樹のイヌマキ防除とチャノキイロアザミウマ、アブラムシの飛来防止効果が高い光反射マルチ処理の両体系処理により、確実な防除効果と省農薬防除技術を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①カンキツ園の防風垣であるイヌマキにはチャノキイロアザミウマが多数増殖しているため6月上旬から8月上旬にかけてイヌマキ対象に2～3回、オルトラン水和剤を散布することによって、果実の被害を顕著に軽減できる。
- ②果実の糖度向上のために実施されている光反射マルチ（タイベックマルチ）を8月中旬に処理することにより、チャノキイロアザミウマ成虫の飛来数を減少させ、果頂部の被害をかなり軽減できる。
- ③チャノキイロアザミウマの激発地帯では、イヌマキ防除と光反射マルチの体系処理によって高い防除効果が期待できる。また、発生の多くない地域では、その地域の通常の発生状況を判断して本虫に対する防除回数を節減できる。

[成果の活用面・留意点]

- ①光反射マルチの効果は、樹冠占有面積が高くなると（約60%）成虫の飛来防止効果が低下する。
- ②イヌマキへの散布薬剤も費用がかかるので、毎年チャノキイロアザミウマの被害が激しい地域で適用するのが得策である。

[具体的データ]

表1 イヌマキ防除及びマルチ処理によるチャノキイロアザミウマの被害軽減効果 (1997)

処理方法	果 頂 部				果 梗 部			
	被害果率	被害度		被害果率	被害度		平均	
	平均	上部	下部	平均	上部	下部		
イヌマキ防除のみ	24.4%	6.5	2.9	4.7	9.4%	1.7	1.5	1.6
イヌマキ防除+マルチ処理	9.4	2.7	0.7	1.6	8.1	1.5	1.3	1.4
無 処 理	40.0	14.0	6.9	10.4	25.6	5.6	4.8	5.2
慣 行 防 除	17.7	10.8	5.8	6.3	21.9	3.1	6.0	4.6

注) 調査:11月18日、上部・下部:樹を赤道部で区切り、それより上及び下にある果実

イヌマキ防除は6月上旬、7月中旬、8月上旬の3回散布、チャノキイロアザミウマ以外の病害虫は慣行防除、光反射マルチは8月18日から収穫まで被覆、慣行防除はオルトラン水和剤を7月中旬と8月上旬の2回散布(イヌマキ無防除、マルチ無処理)。

表2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの発消長

調査月日	イヌマキ防除		無 処 理
	マルチ無し	マルチ処理	
6. 5- 6.12	144	152	362
6.12- 6.20	64	170	206
6.20- 6.27	372	376	818
6.27- 7.15	152	214	211
7.15- 7.23	40	48	68
7.23- 8. 1	128	112	290
8. 1- 8.13	396	560	1080
8.13- 8.19	48	76	110
8.19- 8.27	48	8	200
8.27- 9. 5	208	80	578
9. 5- 9.22	300	12	342
9.22-10. 1	112	12	168
10. 1-10. 9	62	28	186
10. 9-10.15	3	1	8
10.15-11.18	3	0	13

注) いずれの処理にもチャノキイロアザミウマ専用防除剤は無散布

[その他]

研究課題名:チャノキイロアザミウマの省農薬防除技術の実証
 予算区分:県単(新営農)
 研究期間:平成9年度(平成8~9年)
 研究担当者:西野敏勝, 中村吉秀
 発表論文等:平成8,9年度果樹試験場業務報告